

降霜・低温に対する農作物の技術対策について

平成28年4月11日
農業技術課

<生育状況>

果樹では、スモモで満開から落花期、モモは満開期、オウトウは幼蕾期から開花期、ブドウは早場のデラウエアで展葉期となっており、ほぼ前年並の生育となっています。

野菜では、スイートコーン（笛吹市の2重トンネル）で葉枚数が約9枚、茶では、萌芽期で前年、平年よりやや早くなっています。

天気予報では、11日の最低気温が甲府市で4℃、河口湖で-1℃であることから、生育の遅れや凍霜害が心配されますので、今後の気象情報に注意し、農作物の管理を徹底してください。

<気象予報> 気象庁4月11日11時発表 11～13日までの天気予報

11日11時甲府地方気象台発表の天気予報(今日11日から明後日13日まで)

中・西部		地域時系列予報へ		降水確率		気温予報	
今日11日 	北西の風 やや強く 晴れ 夕方 から くもり	00-06	—%	甲府	日中の最高 20度		
		06-12	—%				
		12-18	10%				
		18-24	10%				
明日12日 	北西の風 後 南西の風 晴れ 夕方 から くもり	00-06	0%	甲府	朝の最低 日中の最高 4度 17度		
		06-12	0%				
		12-18	0%				
		18-24	0%				
明後日13日 	南の風 くもり 後 一時 雨	週間天気予報へ					
東部・富士五湖		地域時系列予報へ		降水確率		気温予報	
今日11日 	西の風 晴れ 夕方 から くもり	00-06	—%	河口湖	日中の最高 15度		
		06-12	—%				
		12-18	10%				
		18-24	10%				
明日12日 	西の風 日中 南東の風 晴れ 夕方 から くもり	00-06	0%	河口湖	朝の最低 日中の最高 -1度 11度		
		06-12	0%				
		12-18	0%				
		18-24	10%				
明後日13日 	南の風 くもり 後 一時 雨	週間天気予報へ					

(/のち、|時々または一時)

<果 樹>

1 施設果樹

- オウトウ等の雨よけ施設では、ビニール被覆により降霜を防止する。
- 加温ハウスでは暖房機によりハウス内の温度低下を防ぐ。
- 無加温ハウスでは、カーテンを閉めて保温に努めるとともに、簡易ストー

ブ等を使って加温する。

- ハウス内の夜温低下を防止するため、土壌表面を清耕するとともに、日中の気温の高い時間に散水しておく。
- ハウスは午後早めに密閉して、ハウス内に余熱を確保する。

2 露地栽培等

- 立木果樹は、凍霜害の常習地域では、摘花や摘果を遅らせ、着果数の決定は凍霜害の危険がなくなった時期に行う。
- 果実が低温を受けると、奇形果、さび果、生理落果が発生するので、摘果作業は注意して行う。
- 開花期間中の立木果樹では、下向き花を中心に丁寧な人工受粉を行うとともに、受粉回数を増やす。
- ブドウのホース栽培では、展葉始め以降に低温や凍霜害の発生が心配される場合は、ホースを除去する。
- 凍霜害発生の危険温度になることが見込まれる場合に限り、燃焼法を用いる。

<野菜>

1 トンネル野菜（スイートコーン・レタス等）

- 小型ハウスや一重トンネルの保温効果は、外気温に比較して1℃程度しか期待できないので、低温が予想される場合は、さらに保温効果の高い被覆資材（シルバーシート、不織布、ムシロ）を利用する。
- スイートコーンのトンネル栽培では、軟弱徒長しないようハウス、トンネルの換気を行い、分けつ枝、葉数の確保に努める。

2 露地野菜

- 育苗中は、低温に馴化させて健苗育成に努めるとともに、凍霜害の発生が予知される場合は、保温資材などを被覆する。
- 定植前にビニールマルチ等を張り、地温の確保に努める。
- 定植後の被害に備え、予備苗を確保しておく。

3 水 稲

- 育苗にあたっては、気象の推移に応じて、きめ細かい管理を行う。特に、保護苗代及び施設育苗においては、最低気温が10℃を下回らないようにトンネルまたはハウスの保温、被覆の徹底、水管理等に十分注意する。
- 田植後、気温の低下が予想される時は、夜間は深水とする。

4 茶

- 降霜が予想される場合は、以下の方法で寒冷紗等により被覆を行う。
- 棚がけは、被覆資材を株面より60～90cm離して被覆する。被覆資材は光線透過率が40～50%のものをを用い、日中は開けておく。
- トンネルがけでは、被覆資材を株面より40cmの高さに被覆する。被覆資材は光線透過率が50～90%の不織布を用いる。